

## 今週（1月21日から1月25日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、積み期間の序盤ということもあり、調達ニーズは限定的で引き続き弱めの地合いで推移した。当座預金残高が380兆円台半ばで推移する中、無担保コールO/N物は週を通して▲0.086～▲0.03%のレンジでの出会いとなった。無担保コールO/N加重平均レートは概ね▲0.06%台で推移した。ターム物に関しては、地銀業態を中心にショートターム物で▲0.04%近辺での出会いが散見された。

固定金利方式の共通担保オペは25日に2W・8,000億円がオファーされ、結果は落札額7,015億円(期落ち額5,115億円)となった。

1月22日～1月23日にかけて開催された金融政策決定会合では、金融政策の現状維持が決定された。また、「貸出増加を支援するための資金供給」、「成長基盤強化を支援するための資金供給」、「被災地金融機関を支援するための資金供給オペレーション」等の措置について、受付期間を1年間延長することを決定した。

### ●レポ市場

今週のGC T/Nは、▲0.16～▲0.10%程度のレンジで推移した。

SC個別銘柄では、5年130～138、10年335～353、20年160～166、30年55～61、40年6～11などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、債券相場が堅調だったことや、オペのオファー額が2週連続で5,000億円での実施となったことなどを反映して、全般的にレートが低水準で推移するマーケットとなった。

22日に実施された短国買入オペは、市場予想上限の5,000億円（前回と同額）でオファーされた。応札額が2兆円弱と多く、引け値の低い特定の銘柄に売りが出たためか、平均落札利回較差+0.010%、按分落札利回較差+0.003%と弱めの結果となった。

25日に実施された3M物の入札は、償還日が5月9日と、ゴールデンウィークの10連休越えとなり、WI取引で▲0.185～▲0.183%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1932%、按分落札利回▲0.1878%と前回債からレートが低下する結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、新発3M物がショートカバーから▲0.25%から▲0.30%まで買い進まれるなど、強含みの展開となっていた。

### ●CP市場

今週のCP市場は、4,600億円程度の償還に対して、7,400億円程度の発行が見られる発行超となった。機械・商社・鉄鋼等の業態から大型発行が見られた。市場残高は、週を通して21兆円前後(うち事業法人が18兆円程度)の高水準で推移した。なお、市場残高が21兆円を記録したのは2008年10月以来であり、事業法人のCP活用ニーズがますます拡大している様子が窺える。発行レートに関しては、市場残高が高んできていることを受けて、一部では荷もたれ感も出てきており、積極的なマイナス水準での決着は影を潜めている。a-1格相当の殆どの銘柄が0%付近、希少銘柄や3月末を越えるような銘柄であっても▲0.001%程度にとどまっていた。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
1/21 (月)	20,719.33	0.000	109.55	△ 0.067	△ 0.138	3,853,400
1/22 (火)	20,622.91	△ 0.005	109.63	△ 0.067	△ 0.144	3,867,500
1/23 (水)	20,593.72	0.000	109.64	△ 0.067	△ 0.142	3,865,100
1/24 (木)	20,574.63	0.005	109.50	△ 0.066	△ 0.122	3,864,000
1/25 (金)	20,773.56	△ 0.005	109.72	△ 0.063	△ 0.119	3,866,500

## 来週（1月28日から2月1日）の短期金融市場動向

### ● 経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
1/28 (月)	金融政策決定会合議事要旨(12月19・20日分 8:50) 12月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50)			
1/29 (火)	月例経済報告 (内閣府)	40Y 4,000億円 1/30発行	交付税借入 10,500億円 2/6借入	米FOMC(1日目) 11月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数
1/30 (水)	12月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 1月の消費動向調査(内閣府 14:00)			米FOMC(2日目) 10-12月期の米GDP速報値 1月の米CB消費者信頼感指数
1/31 (木)	山口県金融経済懇談会にて両宮副総裁講演 決定会合における主な意見(1月22・23日分 8:50) 12月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 12月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	2Y 21,000億円 2/1発行		12月の米個人所得・消費支出 1月のシカゴPM景況感指数 10-12月期のユーロ圏GDP1次速報
2/1 (金)	12月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 12月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30)	TB3M 43,400億円 2/4発行	交付税借入 10,500億円 2/13借入	12月の米建設支出 1月の米雇用統計 1月のISM 製造業景況指数 1月のユーロ圏消費者物価指数速報値

### ● 資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
1/28 (月)	800	3,300	4,100	国債買入 全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 5,100 ▲ 400 100	4,700 7,000 700	7,000	11,100	TB3M発行▲43400償還43200 交付税借入▲10500期日10500
1/29 (火)	0	2,000	2,000				0	2,000	
1/30 (水)	0	▲ 4,000	▲ 4,000	社債買入		800	800	▲ 3,200	40Y発行▲4000 交付税借入▲10500期日10500
1/31 (木)	▲ 400	▲ 2,500	▲ 2,900	CP買入		2,500	2,500	▲ 400	
2/1 (金)	0	▲ 27,000	▲ 27,000				0	▲ 27,000	税・年金保険料揚げの前倒し分 2Y発行▲21000
週間合計	400	▲ 28,200	▲ 27,800	—	▲ 5,400	15,700	10,300	▲ 17,500	

1/28は日銀予想、1/29以降は当社予想

### ● 短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、引き続き調達ニーズは弱く、無担保コールO/N物加重平均レートは横ばい圏で推移するものと見込まれる。月末の31日はビットが減少することが予想される。

レポ市場は、GC T/Nは▲0.15～▲0.10%のレンジが予想されるが、月末初取引となる30日のT/Nはオファーが薄くなりやすく、レンジが低下する可能性もある。

短国市場は、2月1日に3M物の入札が実施予定となっている。強含みの地合いの中、オペのオファー額を含めて市場動向が注目される。

CP市場は、月末最終週に入り、ここから3月末に向けて事業法人の発行量がどの程度伸張するのか、動向が注目される。また、28日にCP等買入オペがオファー額2,500億円で予定されている。

主要なイベントとしては、29～30日にFOMC、30日に10-12月期の米GDP速報値、31日に10-12月期のユーロ圏GDP1次速報の公表等が挙げられる。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されており、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。  
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。